

Route Press 21st.

道 21 世紀 新聞

発行所：内閣府認証 特定非営利活動法人 人と道研究会
東京都港区虎ノ門4-1-1 虎ノ門パストラル内
Web http://www.route-press21st.jp



神話の故郷、高千穂の峰々に広がる雲海。東洋一の道路橋「青雲橋」の眼下、日之影溪谷を跨ぐ赤い鉄橋は神話の里を繋ぐ高千穂鉄道だ。雲間にかすむ水色の屋根は日之影町役場。青雲橋は名の通り雲が湧きやすい＝宮崎県西臼杵郡日之影町 (撮影：新藤健一)

東国原英夫
宮崎県知事

郷土愛が地域おこしへ

「高千穂」に探る「生きる」と「つなぐ」

景気後退が地方に重くのしかかる。地域振興の掛け声とは裏腹に地域格差は広がる。地域おこしには「何とかしなければ」という、地元の人々の熱意と努力が不可欠だ。そのエネルギーは、郷土を愛し、ふるさとを慈しむ心から生まれる。郷土愛はそれぞれの土地の歴史や伝統によって、風土のなかで育まれる。東国原英夫宮崎県知事は、郷里の政治的・経済的荒廃を「どげんかせんといかん」と思ったとき、天孫降臨伝説の地、宮崎・高千穂を訪れ、立候補へ背中を押されたような「気」を感じた」という。日本人の心の原点は、日本神話だ。神話や伝説の宝庫、高千穂を訪ね、現代を生きる教示を探るとともに、宮崎県を例に、地方の実情を報告する。

九州は様々な面で日本の縮図の要素がある。中でも交通網の整備が遅れている宮崎県は、九州他県に比べ、経済発展からやや取り残されてきた。道路だけが大切な訳ではないが、社会的な基礎インフラがなくては生活基盤が弱く、他所と同じ生活は出来ない。

東国原知事はこう話す。「遅れた地域にインフラは重要だ。何と言われようが、宮崎だけじゃなく全国的に遅れた地域にインフラの充実を図っていただくため、活動させていた。今後も、地方の声を中央あるいは全国に情報発信していかなければ、と思う」

九州の高速道路網は、福岡から鹿児島まで主に西側を南北に走る九州縦貫自動車道と、大分から長崎へ東西に横切る九州横断自動車道長崎大分線が全線で供用している。だが、九州の東側、大分から宮崎を経て鹿児島を結ぶル

叫びを、ナマの声を 全国に

トは未完。特に宮崎県内では寸断されて、実用価値が低い。鉄道も同様だった。西側を走る鹿児島本線に比べ東側の日豊本線は、電化や複線化も遅れた。九州新幹線も既に開通しているが東側にはない。なぜ開発が遅れるのかは分からない。歴史的に見れば、大分(豊後)には戦国大名、大友宗麟が勢力を張り、鹿児島(薩摩)には島津が強大な力を誇った。その狭間で宮崎(日向)には強い勢力がおらず、強力な藩がなかったからか？

おかげで、高千穂のような「秘境」があちこちに残る。これを観光資源として、新たな旅行者の獲得を目指そうと、それぞれの地元で、郷土愛に根ざした地域おこしが試行されている。

国家財政は厳しいが、公共事業削減は地方にしわ寄せされ、格差はますます拡大する。地域おこしのためにも、インフラ整備を必要とするのは東北、北陸、山陰など全国共通の課題である。

第21号 INDEX	
1~3	特集「高千穂」を探る
4/5	日本風景街道「佐渡国しま海道」
6	列島保全への課題
7	祭時大橋の仮橋開通
8/9	「福」を呼ぶ「鬼」12選
10	国士学事始め なるほどブリッジ
11	話題の道の駅
12/13	グリーンツーリズム 石川県 山形県
14	読者の声 おもしろ万葉集
15	プレゼント パズル

「道の駅検定」2009年春からスタート